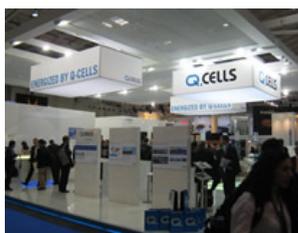


2009/10/19 NEWS_no 09-007 [イベント]

ドイツ・ハンブルク
【24th Europe Photovoltaic Solar Energy Conference Exhibition】イベントレポート



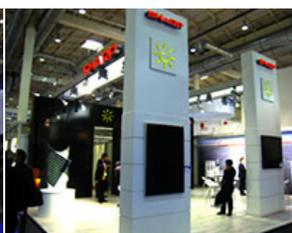
去る2009年9月21日～25日、ドイツのハンブルク市で開催された、欧州最大規模の太陽光発電に関する学会・展示会【24th Europe Photovoltaic Solar Energy Conference Exhibition】(通称PV-SEC)に、ソニーケミカル&インフォメーションデバイスとして初めて【太陽電池用タブ線接続材料】とセルの封止に使う難燃特性を持った【バックシート付き封止樹脂】を出展しました。この展示会は、太陽電池セル・モジュールメーカーや製造・評価装置メーカー、部品/部材メーカーなど、約943社が一同に会し、Q.CELLS(ドイツ)、Isofoton(スペイン)などの欧州勢だけでなく、First Solar(米国)、シャープ、京セラなども出展していました。特に会場を目を引いたのは、サンテック(中国)をはじめとする中国企業の多さで、地元ドイツの5割に次ぐ1割の出展を占め、そのほとんどがセル、モジュールメーカーであり、欧州市場への進出意欲を強く感じました。



Q.CELLS(ドイツ)



First Solar(米国)



シャープ



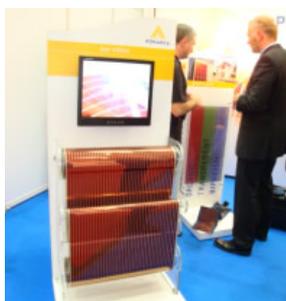
京セラ



サンテック(中国)

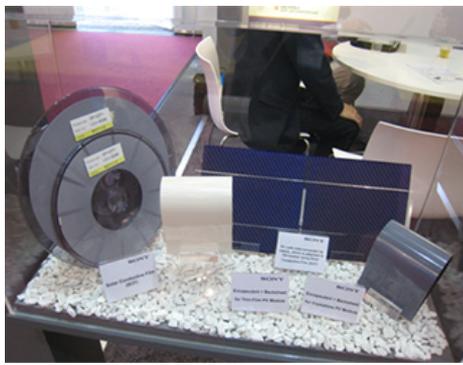


Canadian Solar(中国)



Konarka社ブースの有機薄膜型フレキシブル太陽電池

今回はソーラーパネルだけでなく、セル、モジュールの製造装置、設備メーカーの参加が多く、太陽光産業の着実な立ち上がりを実感した展示会でした。また、Q.CELLSのブースでは発電量の大きい単結晶シリコンを使った156mmのセルを展示、Konarka(米)では約70cm幅のR2Rの形状で有機薄膜型のフレキシブル太陽電池が展示され、ブースで量産開始(生産能力 年産1GW)を発表し、注目を集めており、これによりFirst Solar、サンテックに続く、1GW規模の量産ができる第3のメーカーとなります。



タブ線接合材料とバックシート付き難燃性封止樹脂の製品展示



[拡大する]
タブ線接合材料 SP102F1



[拡大する]
バックシート付き封止樹脂
※参考出品

今回出展した【タブ線接合材料】は従来のはんだ実装と違い、180℃での低温圧着が可能で、実装時のセルのストレスが少なく、薄型設計が可能になる材料です。230℃のはんだ実装や260℃のはんだフリー実装が主流の業界で、200℃以下での接合が可能なSP102F1に興味を持たれ、数多くのセル・モジュールメーカーの方が熱心に質問をしていました。また、あるセルメーカーの方は、「新しい実装材料を知ること、今までできなかった新しい薄型セルの製品化を検討することができる。」と言ってくださり、普段、商談する機会のない、セルメーカーの方とお話ができ、実装材料からセル設計へのアプローチができたことが有意義でした。

また、【バックシート付き難燃性封止樹脂】(参考出品)は、広く使用されているEVA(Ethylene-Vinyl Acetate)樹脂の加水分解で発生する電極腐食物質を抑制し、ホットスポットと呼ばれるセル欠陥部の異常発熱に起因する火災のリスクに備えるため、ウレタン系樹脂を主成分に難燃性を持たせるなど、モジュールの安全性を高めることができることをアピールしました。



当社ブースの様子

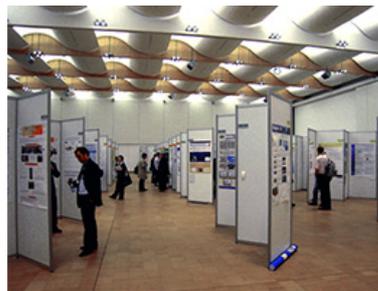


ブース受付



商談中のソニーケミカルヨーロッパのセールスマン

学会はポスター(1222件)とオーラル(302件)で約1500件の発表があり、今年も盛会でした。昨年は第3世代PVの発表が多かったが、今年は結晶系、薄膜系、新技術がそれぞれ約260件近くでほぼ同数発表がありました。



パネル展示フロア

以上、PV-SEC出展の様態をご紹介いたしました。

■ 本件に関するお問い合わせはこちらから

ページトップへ